

本 編



第 1 章

調査研究のねらいと背景

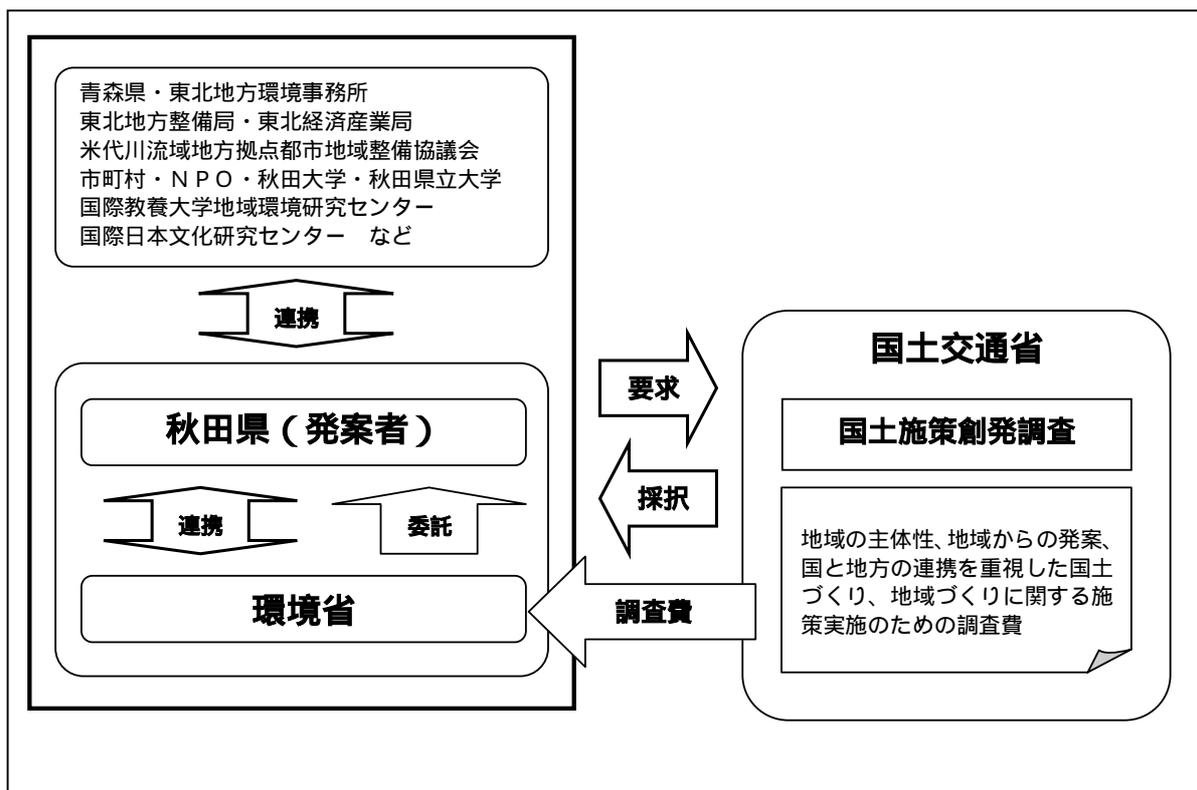
第1章 調査研究のねらいと背景

1. 調査研究のねらい

現在、我が国の多くの農山漁村では、若者の地域流出や少子・高齢化に伴い過疎化が急速に進行しており、地域コミュニティ機能の低下や崩壊など切実な問題を抱えている。このため、本調査では、地域が有する様々な環境資源の賢明な利用（ワイズユース）を通じたコミュニティの再生方策等を検討するとともに、持続可能な地域づくりを目指して、地域の新たな活性化モデルを構築しようとするものである。

2. 調査研究の枠組み

本調査は、平成18年度国土施策創発調査として、秋田県が発案者となり、実施主体である環境省から秋田県が委託を受けて、青森県及び関係市町村、多様な行政機関、大学・研究機関 NGO 等各種団体等との連携により実施したものである。

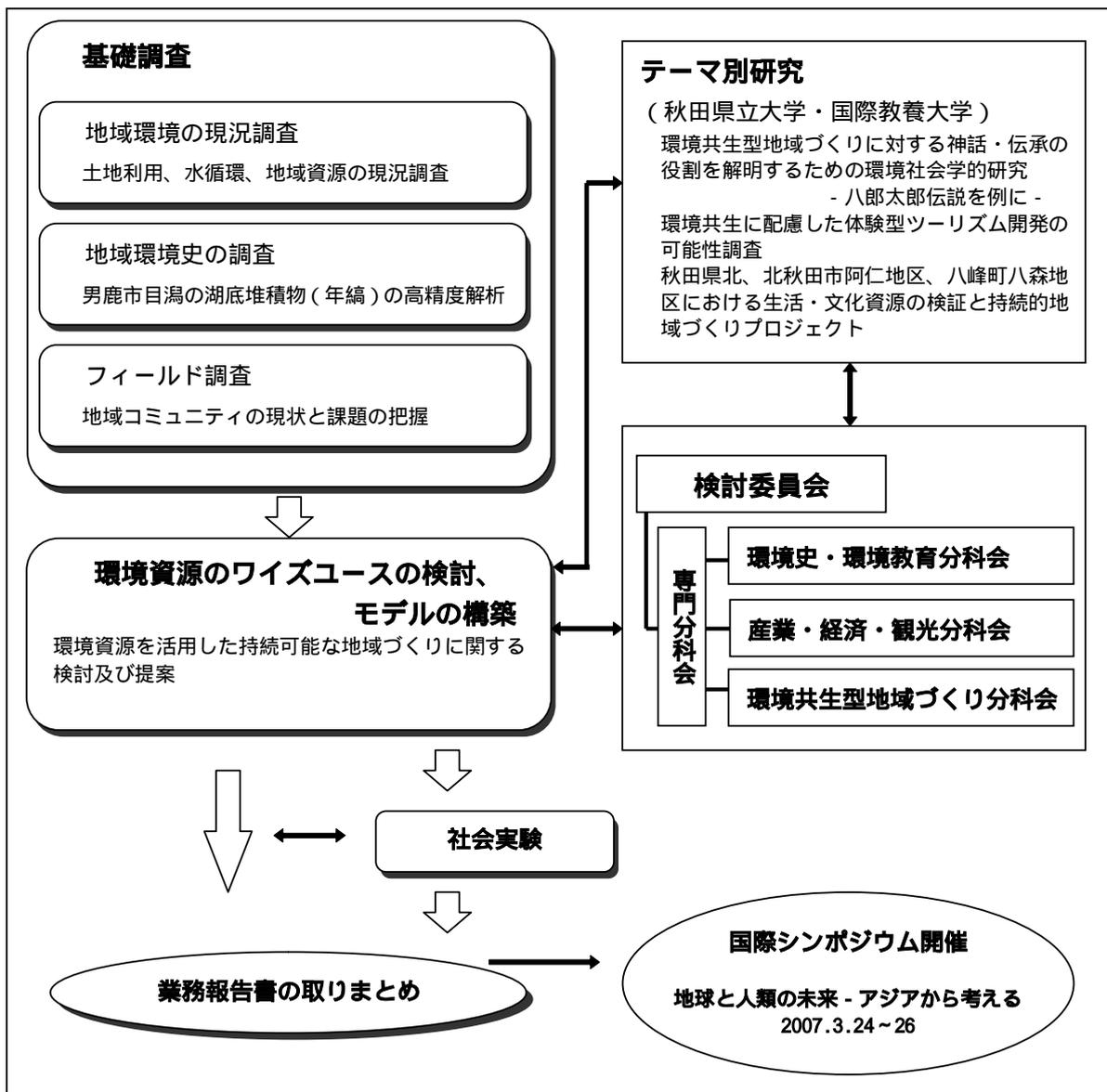


国土施策創発調査としての本調査研究の枠組み

3 . 調査研究の項目及び手順

本調査は、基礎調査（目潟の年縞調査、フィールド調査等）社会実験、テーマ別研究の結果をもとに、環境資源のワイズユースのあり方について検討委員会において検討を行い、とりまとめたものである。

また、本調査の結果を広く世界に発信するため、本調査の一貫として国際シンポジウムを実施した。



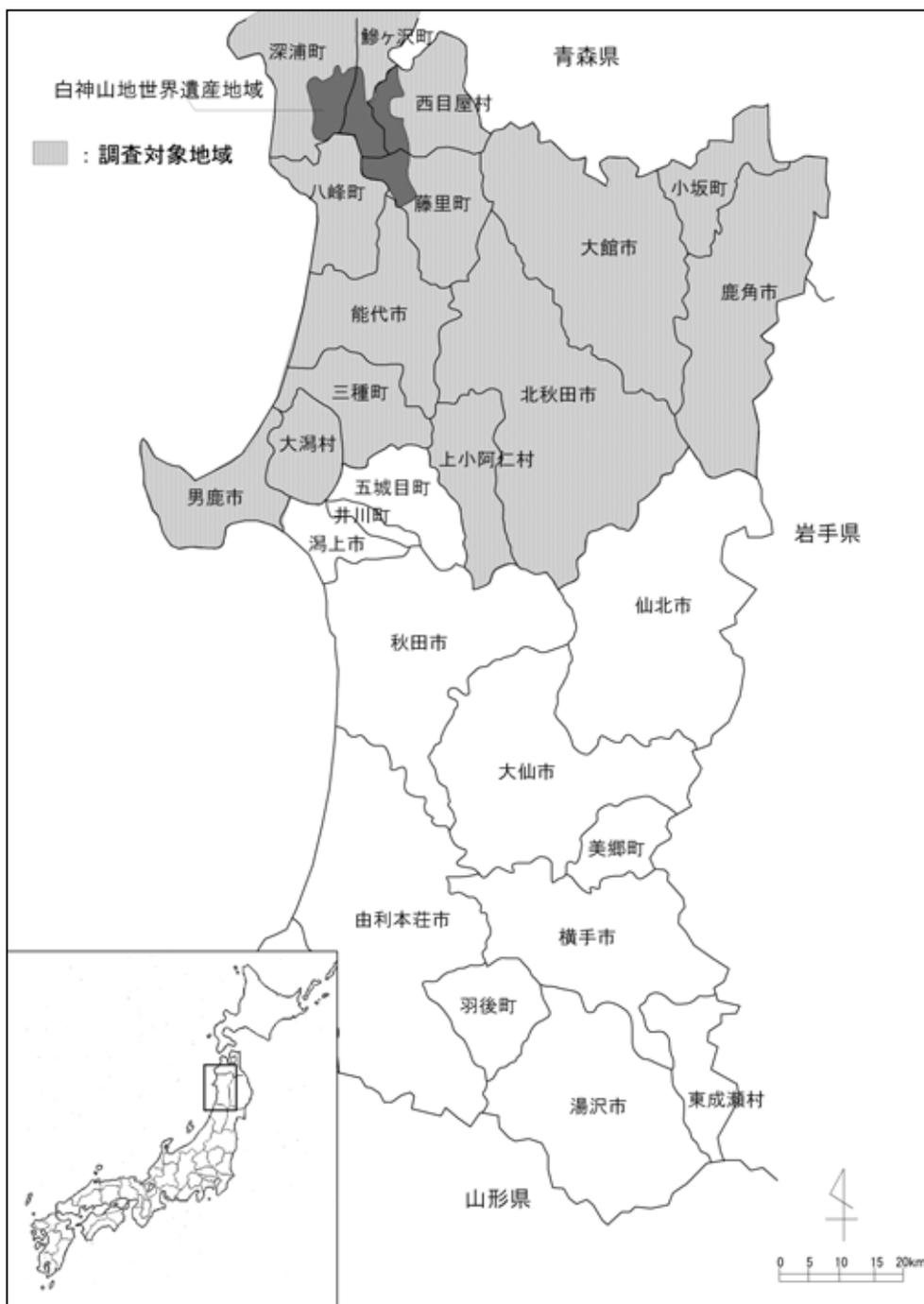
調査フロー

4 . 調査研究の対象とする地域

本調査は、主たる対象地域として以下に示す秋田県北部地域及び男鹿の11市町村並びに青森県の白神山地地域を対象としている。

秋田県地域：鹿角市、小坂町、大館市、北秋田市、上小阿仁村、能代市、八峰町、
藤里町、三種町、男鹿市、大潟村

青森県地域：白神山地世界自然遺産地域及びその周辺



主たる対象地域

5 . ワイズユースの定義と背景

(1) 環境資源のワイズユースとは

1) 本調査研究における環境資源の範囲

本調査研究においては、地域の環境資源として、山、森林、河川、動植物などの自然環境だけでなく、自然を活用してきた農地や里山の風景、伝統的な建物や歴史的遺産、さらには自然を活かした農作物・林産物・特産品、地域の伝統的な行事や芸能、伝統的な食文化や生活の中での自然の利用など、風土や生活文化まで幅広く対象とする。

また、現在あるものや残っているものだけでなく、失われつつあるもの、忘れられつつあるものについても注目して抽出することとする。

2) 本調査研究におけるワイズユースの定義

本調査研究は、地域の環境資源をいかに賢く利活用（ワイズユース）するかということが検討課題である。

本調査研究においては、ワイズユースの定義を以下のとおりとする。

< 本調査研究におけるワイズユースの定義 >

地域住民が自然環境など地域の環境資源の価値を認識しているものであること
人間の営みを豊かにするために利用しながら次世代に引き継いでいくものであること
自然の営みを損なわない範囲内の利用であること

(2) 今なぜ秋田でワイズユースなのか - 調査研究の背景認識

地球温暖化等地球規模の環境問題の顕在化

20世紀におけるエネルギーや資源の浪費型社会のつけが、今、地球温暖化等の全地球規模の環境問題として顕在化してきている。秋田は、経済的には決して豊かとはいえないが、豊かな自然と、緊密な人間関係に支えられた地域社会に恵まれている。21世紀の人類が直面している地球環境問題を解決するには、従来の経済優先、科学技術万能の社会経済システムから、自然と共生した循環型の持続可能な社会経済システムへのパラダイム・チェンジが必要である。そして、このような地球規模の環境問題の解決には、地域レベルから取り組んでいくことが必要となっている。

長い年月の間に培われてきた、自然との共生の技術や知恵の宝庫

我々は、ここ100年程度の科学技術の著しい発展をみるまでは、地域にある自然資源を使い、今でいうところの循環型の生活を営んできた。つまり我々は、自然によって生かされてきたということができ、その中で自然と共生する技術や知恵を培ってきた。秋田県、特に本調査研究の対象地域をはじめとした本県の農山漁村地域では、比較的最近まで自然の恵みを賢く使う生活が営まれ、あるいは今でもその一部は地域の人々によって受け継がれている。地域には、そんな技術や知恵が宝物のようにたくさん埋もれている。

地域の環境資源価値の低下と人と自然のかかわりの希薄化

しかし、戦後の燃料革命、海外からの安価な資源の流入などにより、地域の植林や雑木林、耕作に手間がかかる山間部の農地等の地域の環境資源は、その経済的な価値が低下し、そのため管理されず放置されるようになってきた。この結果、ヤブとなり人が入れなくなった雑木林、間伐や枝打ちが行われないため生育不良の植林、荒地地となっている耕作放棄田などが増加している。このような森林や農地は、生業として利用されていないとともに、子どもの遊び場としても利用されないなど、より一層人が近づかなくなり、人と自然のかかわりが希薄化してきている。また、景観や防災など環境資源の多様な環境保全機能の低下をもたらしている。

自然を使う知恵や技術、文化の継承の危機

秋田県は人口減少が全国一であり、とりわけ農山漁村地域では集落自体の存続の危機にあるところもみられる。長い歴史の中で培われ、かつ、最近まであるいはかろうじて現在まで受け継がれてきた伝統行事や生活文化も、急速な過疎化、高齢化が進む中で、後継者がいないことが多い。地域で受け継がれてきた技術や知恵、文化が継承の危機にある。

自然回帰、ふるさとへの回帰志向の高まり

一方で、都市住民の中には自然地域に居住地を求める人たちもでてきている。全国的にも、Uターン、Jターン、Iターンを進める動きは盛んで、秋田県においてもこれらをあわせてAターンとして推進しているところである。また、都市と農山漁村などとの二地域居住を進めようという動きもある。

また、物質的な豊かさから心の豊かさ志向への転換がある。まだ大きな流れとはいえないが、LOHAS、スローフーズ等のニーズやマーケットが出現してきており、新たな価値観と、これらを取り巻くマーケットの芽生えがみられる。白神のエコツアーがツアーとして成立することもこのような傾向を示しているといえる。

注) LOHAS : Lifestyles of Health and Sustainability の略。健康や環境問題に関心の高いライフスタイル

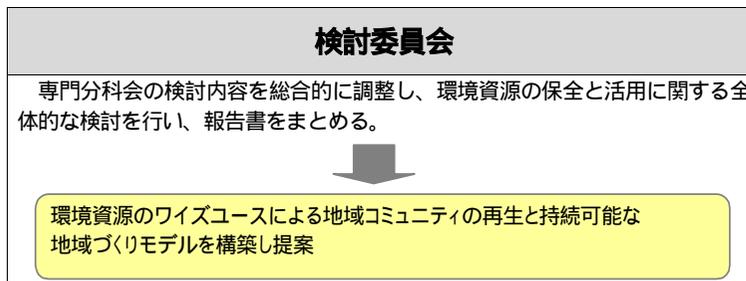
このようなことから、東京中心の現代の社会経済において、忘れられた、あるいは埋もれている地域の環境資源を賢明に利活用(ワイズユース)することで、地域を元気づけることができると考える。ワイズユースは、秋田を活性化するキーである。

6 . 検討の体制

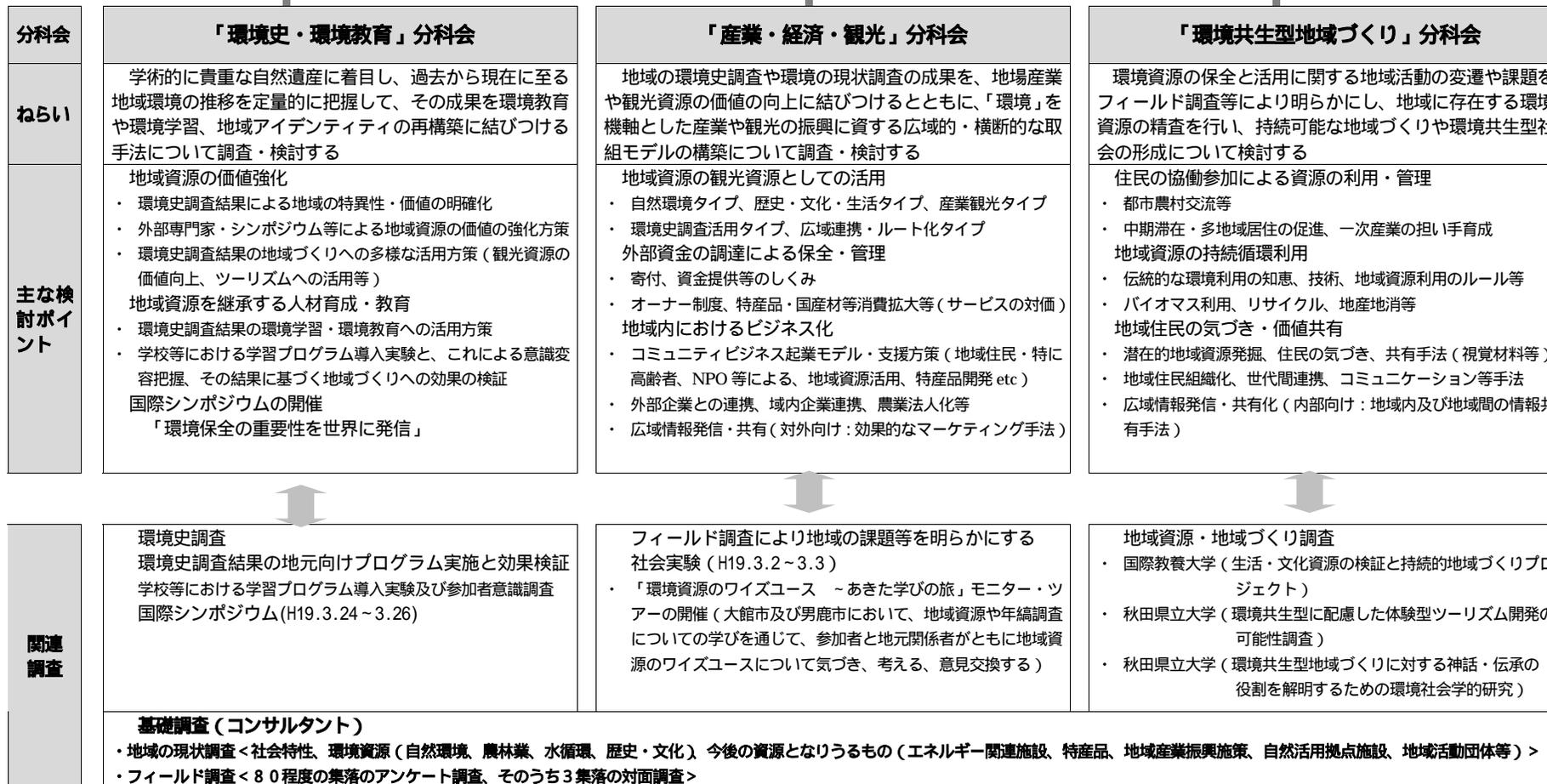
本調査研究は、学識者、NPO、関係行政機関等よりなる検討委員会と、その下に「環境史・環境教育」、「産業・経済・観光」、「環境共生型地域づくり」の3つの専門分科会を設置し、検討を行った。また、県庁内には庁内連絡会を設置し、関係部局等の連携のもとで実施した。

検討の体制と検討のポイント

| スケジュール | |
|----------------|---------------|
| 第1回検討委員会・専門分科会 | H18.11.16 |
| 第2回専門分科会 | H19.1.25~1.31 |
| 第2回検討委員会 | H19.2.1 |
| 第3回専門分科会 | H19.3.5~3.9 |



| 庁内連絡会 |
|--|
| 検討委員会、専門分科会に、既存事業の有効活用や行政サポート体制等について情報提供する |



検討委員会及び専門分科会名簿

| 検討委員会 | | |
|-------|--------|-----------------------------------|
| 委員長 | 安田 喜憲 | 国際日本文化研究センター 教授 |
| 委員 | 福澤 仁之 | 首都大学東京 教授 |
| " | 木村 一裕 | 秋田大学 教授 |
| " | 熊谷 嘉隆 | 国際教養大学 地域環境研究センター長 |
| " | 長谷川 成一 | 弘前大学 教授 |
| " | 中嶋 日吉 | 第一観光バス(株)代表取締役社長 |
| " | 花田 鉄男 | 米代川流域地方拠点都市地域整備協議会 (大館市企画振興課長) |
| " | 増田 裕一郎 | 環境省総合環境政策局環境計画課 課長補佐 |
| " | 藤里 伸男 | 環境省東北地方環境事務所 環境対策課長 |
| " | 舟山 和重 | 国土交通省東北地方整備局企画部 事業調整官 |
| " | 佐藤 良司 | 経済産業省東北経済産業局 企画・情報システム室長(第1回～) |
| " | 森屋 宏 | 同上 (第2回～) |
| " | 石崎 聖一 | 青森県 政策調整課長 |
| " | 板波 静一 | 秋田県 総合政策課長 |

| 「環境史・環境教育」分科会 | | |
|---------------|--------|---------------------|
| 座長 | 福澤 仁之 | 首都大学東京 教授 |
| 分科会委員 | 林 信太郎 | 秋田大学 教授 |
| " | 長谷川 成一 | 弘前大学 教授 |
| " | 西村 隆 | 男鹿市立脇本第二小学校 校長 |
| " | 藤里 伸男 | 環境省東北地方環境事務所 環境対策課長 |
| " | 大野 憲司 | 秋田県教育庁 文化財保護室長 |
| " | 庄内 昭男 | 秋田県立博物館 主任専門員 |
| " | 松山 修 | 秋田県立博物館 学芸主事 |
| " | 小野 勇 | 秋田県総合政策課 将来構想推進監 |

| 「産業・経済・観光」分科会 | | |
|---------------|--------|------------------------------|
| 座長 | 木村 一裕 | 秋田大学 教授 |
| 分科会委員 | 前中 ひろみ | 国際教養大学 助教授 |
| " | 島澤 諭 | 秋田大学 助教授 |
| " | 小棚木 政之 | NPO ひととくらしとまち 大館ネットワーク事務局長 |
| " | 中嶋 日吉 | 第一観光バス(株)代表取締役社長 |
| " | 木村 政義 | 米代川流域地方拠点都市地域整備協議会(小坂町 総務課長) |
| " | 藤里 伸男 | 環境省東北地方環境事務所 環境対策課長 |
| " | 中井 孝明 | 経済産業省東北経済産業局 企画・情報システム室 室長補佐 |
| " | 佐藤 文男 | 秋田県 産業経済政策課長 |

| 「環境共生型地域づくり」分科会 | | |
|-----------------|--------|--------------------------------------|
| 座長 | 熊谷 嘉隆 | 国際教養大学 地域環境研究センター長 |
| 分科会委員 | 荒樋 豊 | 秋田県立大学 教授 |
| " | 谷口 吉光 | 秋田県立大学 准教授 |
| " | 奈良 沙冬子 | 「白神の夢」と文化を育む会 代表 |
| " | 畠山 利勝 | 米代川流域地方拠点都市地域整備協議会 (能代市 環境企画課 参事) |
| " | 藤里 伸男 | 環境省東北地方環境事務所 環境対策課長 |
| " | 今野 敬二 | 国土交通省東北地方整備局 企画課 課長補佐 |
| " | 池田 光晴 | 秋田県 自然保護課長 |

庁内連絡会名簿

| 区分 | 所属 | | 担当 |
|---------|----------|----------|-----------|
| 検討委員 | 知事公室 | 東京事務所 | |
| | 総務企画部 | 総合政策課 | 企画・政策班 |
| | 生活環境文化部 | 八郎湖環境対策室 | 計画調整班 |
| | | 自然保護課 | 自然環境班 |
| | 農林水産部 | 農山漁村振興課 | 調整・起業化支援班 |
| | | 水と緑推進課 | 調整・水と緑企画班 |
| | 産業経済労働部 | 産業経済政策課 | 企画班 |
| | | 観光課 | 調整・観光企画班 |
| | | 資源エネルギー課 | エコタウン班 |
| | 教育庁 | 文化財保護室 | 文化財保護班 |
| | | | 埋蔵文化財班 |
| | 鹿角地域振興局 | 地域企画課 | |
| | 北秋田地域振興局 | 地域企画課 | |
| 山本地域振興局 | 地域企画課 | | |
| 秋田地域振興局 | 地域企画課 | | |
| 事務局 | 総務企画部 | 総合政策課 | |

